



始



朝鮮總督府地質
調査所雜報第三號

朝鮮總督府地質調査所要覽

同所編

145
631

朝鮮總督府地質調查所雜報 第2號

朝鮮總督府地質調查所要覽

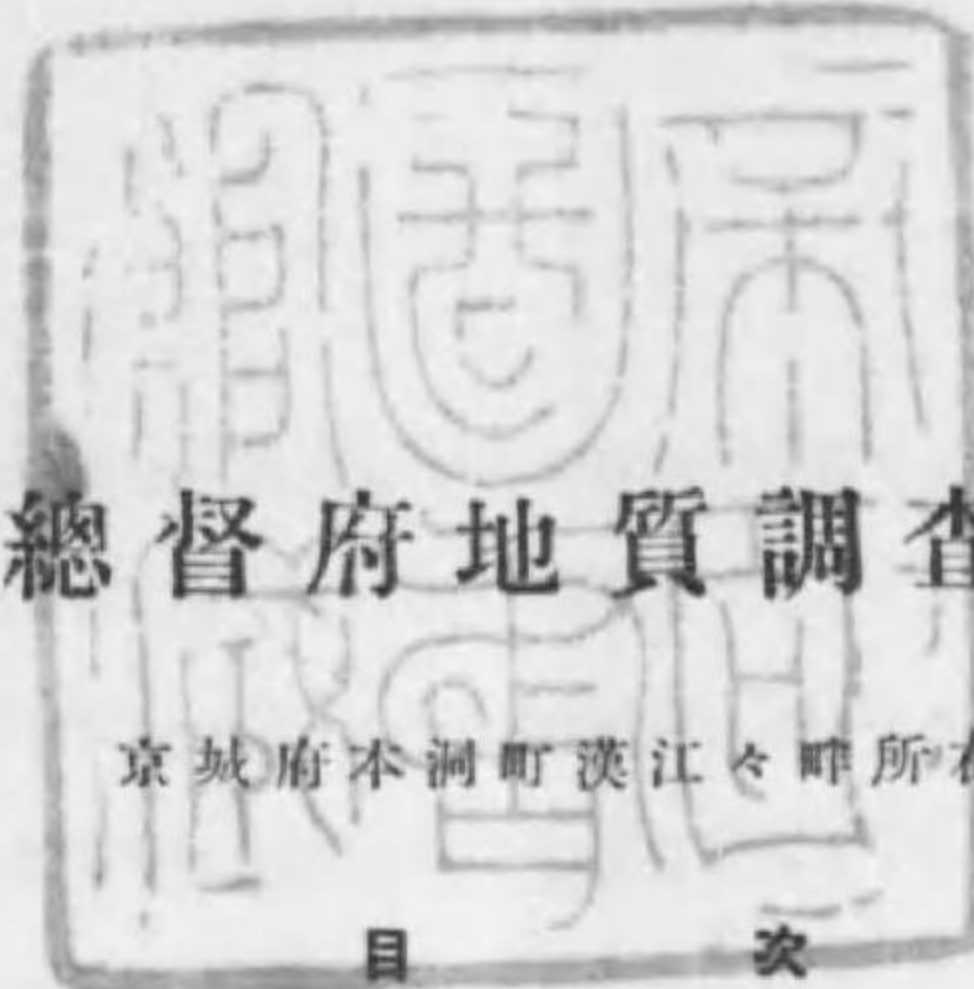
朝鮮總督府地質調查所

昭和12年12月

145

631

145
631



朝鮮總督府地質調査所要覽

京城府本洞町漢江々畔所在*

目次

1. 沿革	1頁
2. 組織	6頁
3. 職員	7頁
4. 設備	11頁
5. 事業概要	14頁

1. 沿革

本府に於ては明治44年度より鑛業の根基となるべき鑛床調査を開始し、大正6年度に於て其の大略を完了したるも、更に進みて朝鮮全土に互り地質調査を實施するの必要を認め、大正7年5月新たに地質調査所を設立したり。是れ、土地の性状を調査研究して鑛物土石及地下水の利用、土木事業、土性等に關する基礎資料を明らかにし、以て殖産工業を始め、其の他土地の利用開發の堅實と促進とを期せんとするの主旨に出でたるものにして、試みに當時に於ける本府村田鑛務課長の本所創立に關する意見書を摘録すれば次〇如し。

地質調査開始に關する意見書 大正6年5月 村田素一郎

第 1. 緒 言

獨逸聯邦撤遜の「フライベルヒ」鑛山大學教授アー、ゲー、ウエルナー氏の西曆1780年に於ける講演及英國ダブリウ、スミス氏の1815年に於ける英國地質圖の創成以來斯學の應用は國土富源の開發を促進し斯學の駁々たる進歩に従ひ人生の福利を増加せしところ甚大な

*昭和10年6月京城府光化門通より燃料選鑛研究所と隣接する現位置に移轉

發行所
寄附
本



り。當初其の研究は多く倫敦地質學會、佛國地質學會及獨乙地質學會等の私立學會の手に委せられたりと暹羅富増進上永く小私立學會の手に委するを許さず遂に1835年の設立にかゝる英國の聯合王國地質調査所を始め其の殖民地に於ける加奈陀地質及博物調査所印度地質調査所其の他歐洲列強國に於て地質調査所及佛國地質調査所等相次で政府所設の地質調査機關の盛はるゝに至り19世紀科學工業の勃興と共に益々該機關の必要を感ずること切實にして各國籠ひて之を設立し今や輿地上苟くも文明國を以て任ずる獨立國並に其領土若くは殖民地に於ては該機關の備はざるものなきに至れり而して地質調査は特に新聞の國土に於て最も概要にして且其の功果の最大なるは勿論のことにして夫の北米合衆國の地質調査所の如きは其の設立遅しと雖も設備の大なると事業の盛んなるは實に世界第一と稱せらる。

想ふに地質調査事業の進歩如何は直に國力の強弱産業の盛否を卜するに足るものにして國土利源の開発を計り國家富強の基礎を固くせんとするには一日も此の事業を忽にすべからざるものに屬す。

續りて我が國土に於ける地質調査事業を見るに領土の膨脹と世界の進運に比し甚だ振はざるの状態にあるは國運の發展上甚だ遺憾なき能はず明治11年東京大學御熊教師「エドモンド、ナウマン」氏及同學理學部助教和田維四郎氏の建議に基き地理局に地質課を置かれてより本邦の地質調査漸やく其緒に就き或は地質局と稱せられ或は地質調査所と唱へられ時に農務局時に鐵務局の所管となり又農商務省に直屬し幾多の變遷を経て現時に地質調査所となれり然れども其の規模は國運の發展に伴ふに至らずして臺灣樺太南滿洲及朝鮮は其の範圍外に置かざるべからざる状態にあり従ひて是等の地は各政廳に依りて調査せらるることとなり各其の概察を了したりと雖も臺灣及樺太は僅に其の概察を了したるのみにて調査事業を廢し國土開發の根本義を忽諸に付したる觀あるは甚だ遺憾とするところなり。

只南滿洲には南滿洲鐵道株式會社に屬する地質研究所ありて利源の開発に貢献しつゝあるは欣ぶべし。

朝鮮は古くより鐵産國として内外に宣傳せられしも其の真相全く不明の状態にありしを以て併合と共に鐵業政策上並に利源開發上の必要に應じ先づ6箇年を期間として地質鐵床

の概察を結了するの計畫を定め翌4年度より之を開始し大正5年度を以て豫定の如く略之を完結せり本概察は既に朝鮮の地質構造の一般を明らかにし地下賦存鐵産物は其鐵種品質並に鐵量に於て甚だ豊富なるを確知し且其の状態及性質の一般を究めたり爲に鐵業の發展上貢獻するところ少からざるのみならず將來に於ける地質精査の根底を樹立せるものなり既に朝鮮の鐵産物に豊富なるを確知せる上は之れが開發利用の完全を期する爲め新に之れが精査及利用の研究機關の必要を眞摯に感ぜざんばあらず之れ自ら非才を顧みず茲に地質



第1圖 朝鮮總督府地質調査所廳舍全景(南方より望む)

精査に關する卑見を建白する所以なり。

第 2. 地質調査の應用

地質調査の應用は當初只鐵業の目的物たる鐵物の所在、品位、鐵量及埋藏の状態を闡明し以て斯業の根底を確定して鐵物の利用開發をして最經濟的に且遺利なからしむるを以て其主眼とし調査は鐵業地に限られたるの觀ありしも斯學の發展と調査の進歩とに従ひ農林工業土木及水理等に關する事業の方針を定むる資料をも與ふるに到達し今や地質調査は是

等の百般事業に資賦するところ頗る大なり。

元來各種工業の原料たる鑛物は農産物林産物又は水産物と全然其の趣を異にし一國土内に於ける天賦の數量は既に一定して之を増進するの絶對に不可能なるものにして之を採掘するに於ては逐年天賦の數量を減じ將來全く之を存せざるの時費の到達すべきを想像するに難からず既に歐先進國に於て又日本内地に於ても數種の鑛種は漸々減少して今や盛況は只之を過去に於てのみ見るに至りしものあり茲に於て領土内に於ける有用鑛物の品種品質及鑛量を確定して國家百年の鑛業政策を樹立し之を有利に開發して遺利なからしむると共に其の他の鑛物の利用を研究して人生の福利を増進するに勉めざるべからず之れ轉近世界各國の競ひて此調査機關を擴張する所以なりとす殊に鑛業政策の樹立は各國夙に其の焦眉の念を感じ英國には十餘年前既に設けられたる石炭供給調査委員會あり其の他瑞典の鐵鑛委員會米國の天産物保存委員會等ありて地質調査所之を主幹とするを常とす。

農林業に於ても其の利用し得べき陸土の廣表に限りあるを以て社界の進運と共に其の産物の増殖に勉めずんばあらず而してこは土性を究めて植物との關係を明かにするを以て其の根底とせざるべからず而して土性の研究は地質調査に待たずんば能はざるものなり嘗て其の土性を究めたることなく又は淺薄なる模倣に陥りて土性又は地質の如何に對しては只形式的に了解を裝ひ以て徒らに増殖の方法を云々するが如きは砂上に樓閣を築くに異ならず土木事業に至りては豫め其の地盤の性質構造等地質調査の樞要なるは言を俟たず隱道の崩壞歪曲橋梁防波堤の陥落工事の冗費等其の地盤調査の不完全に歸因するもの少なしとせず又地上及地下水利用の發達著しき現今に於て其の調査の忽にすべからざるは先進國の地質調査事業中用水調査の勃興せるを見ても之を了解し得べし要は地質調査は吾人の棲息する地盤を究めて陸産物の發達を促し且各種事業に必須なる原資を藪かにし以て其の基礎をして鞏固ならしむるにあり。

第 3. 先進國の地質調査概況

世界に於ける地質調査事業の著しきものの中規模の廣大にして事業の活潑なるは北米合衆國を第1とし事業の整然たるは歐洲の強國にして英獨兩國殆んど相如き澳洪兩國之れに次ぎ佛國は制度稍異なるところあるも其の事業之れに伯仲す其他露、伊國も亦見るべきも

のあり領土若くは殖民地にありては加奈泥及印度を推す。

現時に於ける文明國並に其の領土若くは殖民地にして地質調査機關の備はらざるものなきは既に説述せしところ茲に世界に於ける該機關にして見るべきものを擧ぐれば左の如し。

(以下中略)

世界に於ける地質調査事業の概況は前述の如し各國はもとより其の遠隔なる領土若くは殖民地に至る迄各政府は地質調査所又は地質調査會を設立し競ふて其の國土の利源調査に従事するを見る而して其の事業を通覽するに各國共に鑛床の調査及其の利用の研究に重きを置き次で土壤給水並に土木の基礎に關する資料の調査を怠らず又各種工業の端俟すべからざる發展は逐年原料の需用を増加し或るものに至りては其の缺乏を告んとするの現況にあり故に國土内に埋藏する富源を闡明するに焦慮するのみならず又一方に於て其の利用の效果をして益光輝あらしむると同時に嘗て無用視せられたる物件を利用する方法を講究せざるべからざるの現況にあり茲に於て専門的文庫理化學的試験室及陳列場は地質調査所の缺くべからざる要素となり各國の地質調査所には之を具備せざるものなし特に陳列場は調査報告書と相俟ちて調査の結果を現實に解得せしむる最便の法なりとす。

調査作業に就て見るに毎年8.9箇月を外業に3箇月を内業に充つるあり又反對に3.4箇月を外業に8.9箇月を内業に費すあり之れ其の國土の季候調査の目的及調査所の組織に依りて異なるものなり又地質鑛産圖は概察又は總圖を除き通常10萬分の1乃至2萬分の1とす要は學術の進歩と應用の増進とに依り各國次第に縮尺の大にして精密なる地質圖の必要を感じるものなり。

地質調査の事業及其の設備如斯を以て之に従事する者は各優秀なる専門家たるを要し其の設備せる調査所に至りては幾多知名の専門學士を網羅せりと雖一般に鑛床調査を主とせる調査所に於ては左の専門技術家を要するものなり。

應用地質技師

地質技師 古生物學又は岩石學専門家を含む

製圖測量手

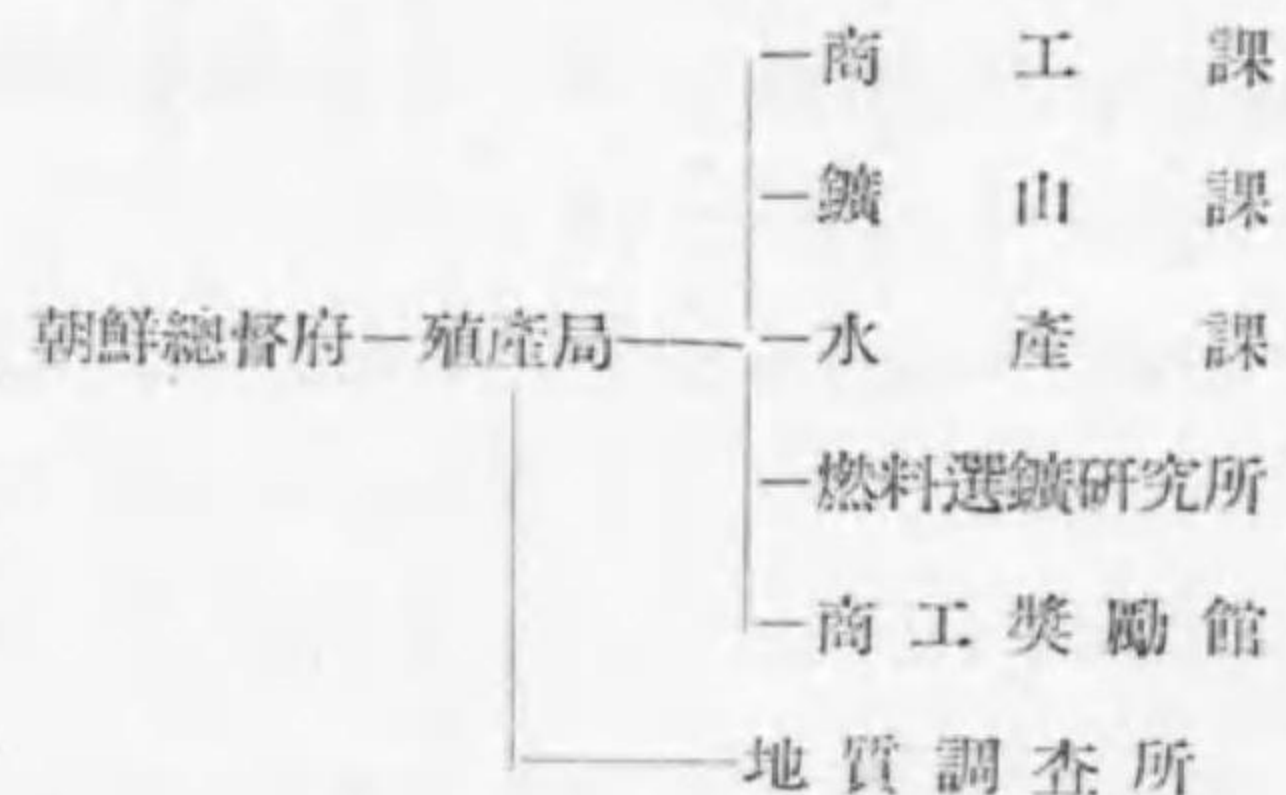
外に陳列場主任及書記

又調査機關の所屬上級官廳は或は農務に或は鑛務に或は内務に或は文部に屬すと雖概して農商工務省の所管たるを見る而して其事業は全く行政事務と其の性質を異にし又は少くとも直接に行政事務に關與するものにあらざるを以て他の行政分課以外に之を置くを最普通なりとす。

爾來本所に於ては、4名乃至6名の地質又は理化學専門技師、4名乃至7名の地質、理化學、製圖又は測量専門技手、屬1名、其の他數名の職員を以て只管使命の遂行に従事し、逐次其の成績を内外に發表しつゝ今日に至れり。

2. 組 織

本所は殖産局内にありて殖産局長の主管に屬し、第1次所屬官署に準じて其の取扱を受く。朝鮮總督府殖産局分課一覽表を掲ぐれば左の如し。



而して大正7年5月訓令第29號地質調査所事務分掌規程に據れば、本所には庶務係及調査係を置き

庶務係に於ては

1. 人事に關する事項
2. 官印の管守に關する事項
3. 報告及記録に關する事項
4. 文書の收受及發送に關する事項

5. 圖書の保管及整理に關する事項
6. 會計に關する事項
7. 所内取締に關する事項
8. 他係に屬せざる事項

調査係に於ては

1. 地質の調査に關する事項
2. 鑛床及有用鑛物の檢定に關する事項
3. 鑛業用及工業用材料の分析並試験に關する事項
4. 地質圖其の他の刊行に關する事項
5. 地質及鑛物に關する標本の蒐集並整理に關する事項

を掌り、調査係員を以て既定計畫に基く地質精査(圖幅調査)並鑛床鑛物等の檢定に任ずる調査班2箇班並國境地帯に於ける簡易地質調査に任ずる調査班3箇班を組織し、尙便宜上更に本係を分ちて次の4掛とし調査事務を分擔す。掛名及各掛の主要分擔事務を擧ぐれば次の如し。

調査掛 地質調査、鑛床及有用鑛物の檢定

製圖掛 地質圖並地質調査上に必要なる地形圖の作製

分析掛 化學分析試験

標本掛(調査掛を以て之を兼務す) 標本の蒐集並整理

圖書掛(調査掛及庶務係の各1部を以て之を兼務す) 圖書の整理

3. 職 員

1. 定 員

技 師	6名
技 手	7名
屬	1名

2. 職員 昭和12年10月30日現在、括弧内は任命年月

所長 技師 立岩 巖 (大正9年11月)
 庶務係 屬 小林 正義 (昭和12年6月)
 雇員 山田 清太郎 (昭和3年4月)
 同 河野 浩 (昭和11年8月)
 圖書掛 同 石田 正夫 (昭和10年5月)
 臨時雇員 屋敷 フミ (昭和12年9月)
 調査係 調査掛* 技師 立岩 巖 (大正9年11月)
 同 同 木野崎 吉郎 (大正15年11月)
 同 兼圖書掛 同 波多江 信廣 (昭和8年5月)
 調査掛 同 津田 秀郎 (昭和12年10月)
 同 同 中村 慶三郎 (昭和12年10月)
 同 同 山口 定 (昭和9年12月)
 分析掛 技手 山澤 三造 (大正10年1月)
 同 同 水間 巽 (大正10年4月)
 調査掛 同 村越 英雄 (昭和12年9月)
 同 同 高橋 英太郎 (昭和12年5月)
 製圖掛 同 井上 藤三郎 (昭和4年4月)
 同 雇員 山崎 寛顯 (大正7年6月)
 調査掛 同 野崎 助治郎 (昭和6年3月)
 製圖掛 同 笠井 英夫 (昭和12年7月)
 調査掛 同 金得 洪 (昭和12年4月)
 製圖掛 同 関 奉 珍 (昭和12年4月)
 分析掛 同 武上 統 (昭和9年6月)

*調査掛はすべて標本掛を兼務す。

調査掛 雇員 李 建 植 (昭和7年6月)
 同 同 李 源 福 (昭和7年6月)
 分析掛 臨時雇員 李 達 鎬 (昭和11年11月)
 調査掛 同 金 周 應 (昭和12年5月)
 製圖掛 同 崔 英 奎 (昭和11年8月)

3. 嘱託

理學博士 川崎 繁太郎 (昭和6年4月)
 東京帝國大學理學部助教授 理學博士 小林 貞一 (昭和4年5月)
 同 助手 片山 信夫 (昭和9年7月)

4. 舊職員

氏 名	官 職 (退 職 當 時)	任 命	退 職
村田 素一郎	技師(所長)	大正7年5月	大正8年5月
川崎 繁太郎	技師(所長)	同	昭和6年3月
中村 新太郎	技 師	同	大正8年11月
保科 正昭	同	同	大正9年11月
谷貝 太郎作	同	同	大正12年3月
仲山 竹三郎	同	同	昭和8年4月
許 丙 斗	技 手	同	昭和8年4月
權 景 禧	雇 員	同	大正9年1月
谷 川 浩	技 手	同	大正13年
野崎 金藏	同	同	昭和6年3月
羅 成 燦	雇 員	同	大正13年12月
清水 信徳	同	大正7年6月	大正13年4月
河野 亮齋	屬	大正7年7月	昭和2年6月

氏名	官職(退職當時)	任命	退職
鈴木 誠	技手	大正8年1月	大正9年6月
石倉 昇	技師	大正8年3月	大正13年12月
泉田郡 左右門	雇員	同	大正9年12月
權 龍 運	同	大正8年4月	大正11年4月
田村 龜太郎	技師	大正8年6月	昭和5年1月
山成 不二麿	同	大正9年11月	大正13年12月
本多 敬一	同	大正10年2月	大正11年10月
篠原 正太郎	技師	大正10年2月 昭和2年2月	大正14年3月 昭和9年5月
李 奎 鍾	技手	大正10年3月	大正13年12月
島村 新兵衛	技師	大正10年6月	昭和9年12月
趙 源 百	雇員	大正10年6月	大正13年12月
駒田 亥久雄	技師	大正10年8月	大正15年8月
金剛 義江	技手	大正10年11月	昭和3年4月
植田 勳	雇員	大正11年5月	大正11年8月
魚谷 信弘	同	同	同
徐 相 珪	同	大正11年9月	昭和2年3月
弘 中 昇	屬	大正13年6月	昭和6年12月
金 聖 浩	囑託	昭和3年11月	昭和4年4月
淵 上 靜次	屬	昭和6年12月	昭和12年6月
本島 覺四郎	同	同	昭和11年7月
森 芳 雄	雇員	昭和10年8月	昭和10年8月
高橋 忠男	臨時雇員	昭和10年5月	昭和10年6月
牧野 義惠	同	昭和10年6月	昭和11年3月

氏名	官職(退職當時)	任命	退職
高木 スエ子	臨時雇員	昭和11年4月	昭和11年5月
氏家 雪子	同	昭和11年6月	昭和12年9月

4. 設 備

主要建物 第2圖参照

本館 昭和10年度建築、鐵筋コンクリート2階建、延約100坪、所長室、庶務室、調査室及製圖室あり。

別館 燃料選鑛研究所燃料試験室を改造したるものにして、煉瓦2階建、延約275坪、調査室、鑛物實驗室、圖書室、圖書閱覽室、標本陳列室、標本格納室、濕式並乾式分析試験室、石磨室、寫真室(撮影室並現像室)等あり。

以上の外、目下建築中なる燃料選鑛研究所本館竣工後は従來同所に於て本館として使用せる木造1階建1棟を譲受け、主に調査室として之を使用する豫定なり。

尙室内設備に就て略記すれば次の如し。

調査室(4室) 調査掛員の内業に従事するところにして通常岩石用顯微鏡を設置する外特殊の設備なし。

鑛物實驗室(1室) 鑛物の物理性檢定に必要な「ゴールドシュミット」の複圓測角器、比重測定器、單色光器、岩石用顯微鏡等を設置す。

濕式分析室(2室) 分析臺3臺、通風室3室、電熱器、エーア瓦斯發生器等あり。

乾式分析室(1室) 分解爐、マツフル爐各1基あり。

標本陳列室(1室) 當所員の蒐集に係る朝鮮産岩石、鑛物、化石、鑛石及石材の外、他より寄贈せられたる鑛物、鑛石、石材、鑛物を主なる材料として使用

せる製品又は半製品等を整理陳列し、當所員調査研究上の参考又は研究資料に資する外、一般の供覧に便ならしむるものなれども、狹隘なる關係上出陳標本數多からざるを遺憾とす。

目下陳列室内並廊下に陳列する標本數を示せば次の如し。

朝鮮産岩石、礦物及鑛石	約 2,500個
朝鮮産建築、土木、裝飾用石材	56個
朝鮮産動物及植物化石	約 210個
其つ他斷層、褶曲、迹痕、乾裂、鑛物の産狀、火山現象等に關する標本類並鑛物を原料とする製品又半製品若干	

標本格納室 (1室) 野外調査中蒐集したる標本類を整理格納して當所員の研究又は参考資料たらしむるところなれども、狹隘にして蒐集資料の一部を收容し得るのみなり。

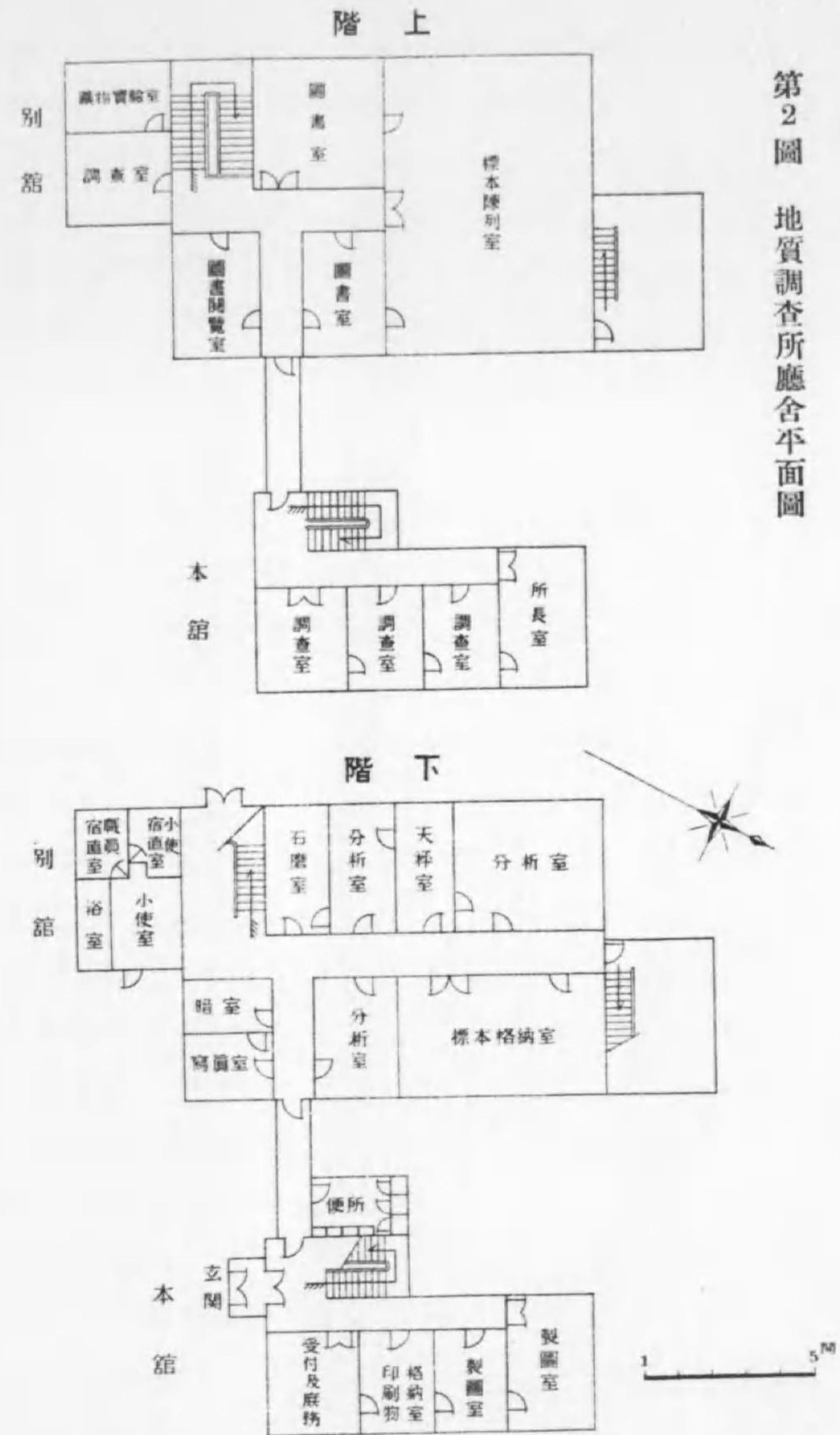
圖書室 (2室) 寄贈又は購入に依る和漢又は歐文圖書、報告、雜誌、地質圖等を格納し、主として當調査員調査研究上参考用たらしむるものにして昭和12年7月現在藏書部數*を示せば次の如し。

和洋書 (單行本)	1,222部
定期刊行物 (主に雜誌類)	1,566部
不定期刊行物(報告書類)	6,605部
合計	9,393部

因に當所に於て購入又は寄贈を受けつゝある専門雜誌又は之に準ずる主なる刊行物を擧ぐれば次の如し。

- 地質學雜誌
- 地學雜誌

* 雜誌類は1卷(通常1箇年分)を以つて1部とす。又報告書類は2部乃至數部合本せしものを以つて1部と看做せる場合少なからず。



第2圖 地質調査所應舎平面圖

地理學評論
岩石礦物礦床學
火 山
地 震
日本地質學地理學輯報(歐文)
日本天文學及地球物理學輯報(歐文)
帝國學士院記事(歐文)
水曜會誌
礦業資料
鐵 と 銅
探礦冶金月報
石炭時報
石油時報
自然科學と博物館
朝鮮礦業會誌
朝鮮博物學會誌
滿洲礦業協會々報
Journal of Geology
American Journal of Science
Economic Geology
Pan-American Geologists
Chemical and Metallurgical Engineering
Chemical Abstracts
Bulletin of the Geological Society of America
Geological Magazine
Mineralogical Magazine

Quarterly Journal of the Geological Society of London
 Neues Jahrbuch für Mineralogie, Geologie und Paläontologie Abt. A&B
 Neues Jahrbuch für Mineralogie, Geologie und Paläontologie

(Beilage-Band)

Zentralblatt für Mineralogie, Geologie und Paläontologie

Zeitschrift der Deutschen Geologischen Gesellschaft.

Zeitschrift für Praktische Geologie

Zeitschrift für Kristallographie Abt. A&B

Geologisches Zentralblatt Abt. A&B

Senckenbergiana

Natur und Volk

Far Eastern Review

Bulletin of the Geological Society of China

Boletín de Minas y Petroleo

Queensland Government Mining Journal

石磨室 (1室) 顯微鏡によりて檢定すべき岩石鑛物等の薄片又は研磨面を作製する設備を完備す。

寫眞室 (1室) 撮影室及現像室に分れ、野外調査に野稿圖として使用すべき地圖類の擴大圖又は縮圖、調査報文に添付すべき参考又は憑微材料の寫眞を作製する設備を完備す。

5. 事業概要

本所に於ける主なる事業は之を(イ)一般地質精査(圖幅調査)、(ロ)鑛床及有用鑛物の檢定、(ハ)國境地帯簡易地質調査、(ニ)参考標本類の蒐集、(ホ)調査

報告書の刊行に大別し得べし。尙嘗ては化學分析試験と共に、鑛業材料に關する利用試験をも施行せしも、大正11年燃料選鑛研究所開設後は主として化學分析試験を実施するのみとなり以て今日に至れり。而して本試験は専ら當所員野外調査の結果蒐集せられたる参考材料、其の他當所に於ける調査研究上参考となるべき資料の定性又は定量分析をなすものにして、一般の依頼に應じては之を施行するの規定なし。

各主要事業に就て簡単に説述すれば次の如し。

(イ) 一般地質精査(圖幅調査) 第2圖を見よ

當所に於ては大正7年其の開設と同時に、産業開發上調査の急を要する區域大約7000方里を鮮内に選定して之を第1期精査豫定區域と定め、精査の結果は之を縮尺5萬分一地質圖幅に調製し、精細なる説明書並説明圖を附し印刷刊行することゝして直ちに踏査を開始したり。爾來この方針に基きて、地質専門技師1名を主任とする調査班2乃至4箇班を以て之に當り、今日迄の約20年間に朝鮮全土の約1割1分に相當する約1600方里の調査を了へ、其の内約1300方里は朝鮮地質圖第1乃至第18輯總計57圖幅として既に印刷刊行し、尙現に咸鏡南道端川地方奥地の4圖幅(印刷中)、江原道金化平康地方の2圖幅、同伊川郡安峽地方の2圖幅、同蔚珍地方の3圖幅、同太白山附近の2圖幅及平安南道順川地方の3圖幅に就き印刷中又は調査繼續中なり。

之等地質圖幅は1圖幅25方里内外を、1調査班40日内外の短期を以て實地踏査完了するものにして、もとより調査の完璧を期し難しと雖、調査の効果は踏査開始と共に早くも現地に於て發掘せられ、又往々、例へば咸鏡南道端川郡の菱苦土鑛大鑛床に於けるが如き重要なる發見、若は發見の端緒をなし、更に刊行後は

1. 鑛區の設定
2. 鑛物及土石の探査及探鑛並水源探査



3. 貯水池設定並貯水池基盤調査
4. 鐵道、道路、隧道、其の他土木建築工事
5. 殖林、砂防工事、土性調査

等頗る多方面に亙り、夫々重要なる基礎資料を提供する示針として、鑛業其の他各方面に廣く利用せられつゝあり。

(ロ) 鑛床及有用鑛物の檢定

前記一般地質精査に従事する職員を以て、一般の依頼又は然らざるも臨機必要に應じ、地質、鑛床、水脈、鑛物、土石等に関する檢定に従事し、其の結果は朝鮮地質調査要報又は同鑛床調査要報として之を印刷刊行しつゝあり。

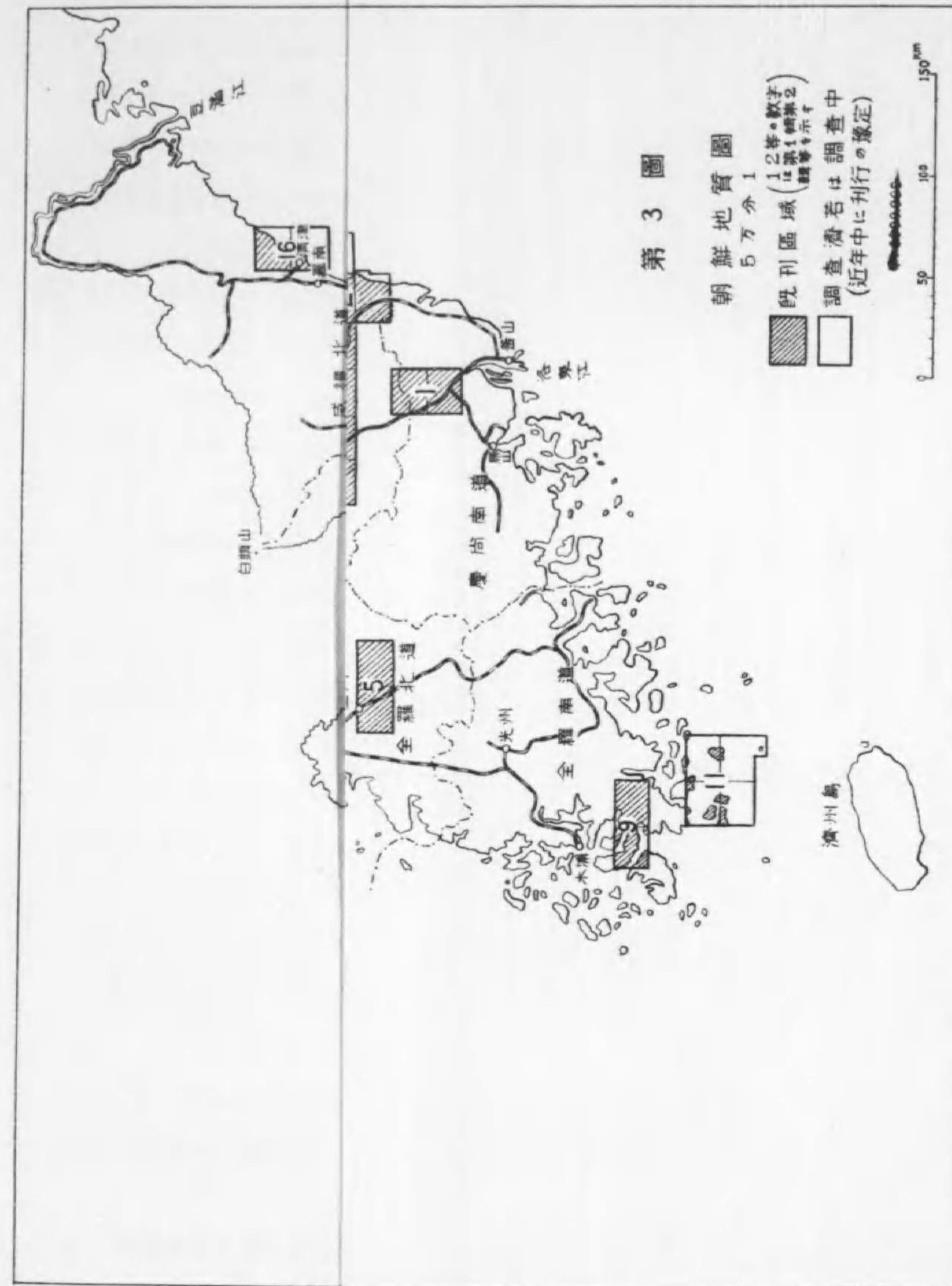
最近5箇年間に施行したる主なる檢定事項を列擧すれば次の如し。

昭和8年

- 忠清北道槐山郡温泉調査
- 全羅南道海南珍島及務安郡並慶尙南道金海郡伊礬石鑛床調査
- 平安北道義州郡ニッケル鑛床調査
- 平安南道成川郡新倉面出願石油鑛區調査
- 同 成川郡石棉鑛床調査
- 江原道伊川郡石棉鑛床調査
- 咸鏡北道鏡城郡朱乙温泉調査
- 平安南道平壤地方黨業原料調査
- 咸鏡北道吉州及城津郡菱苦土鑛々床調査

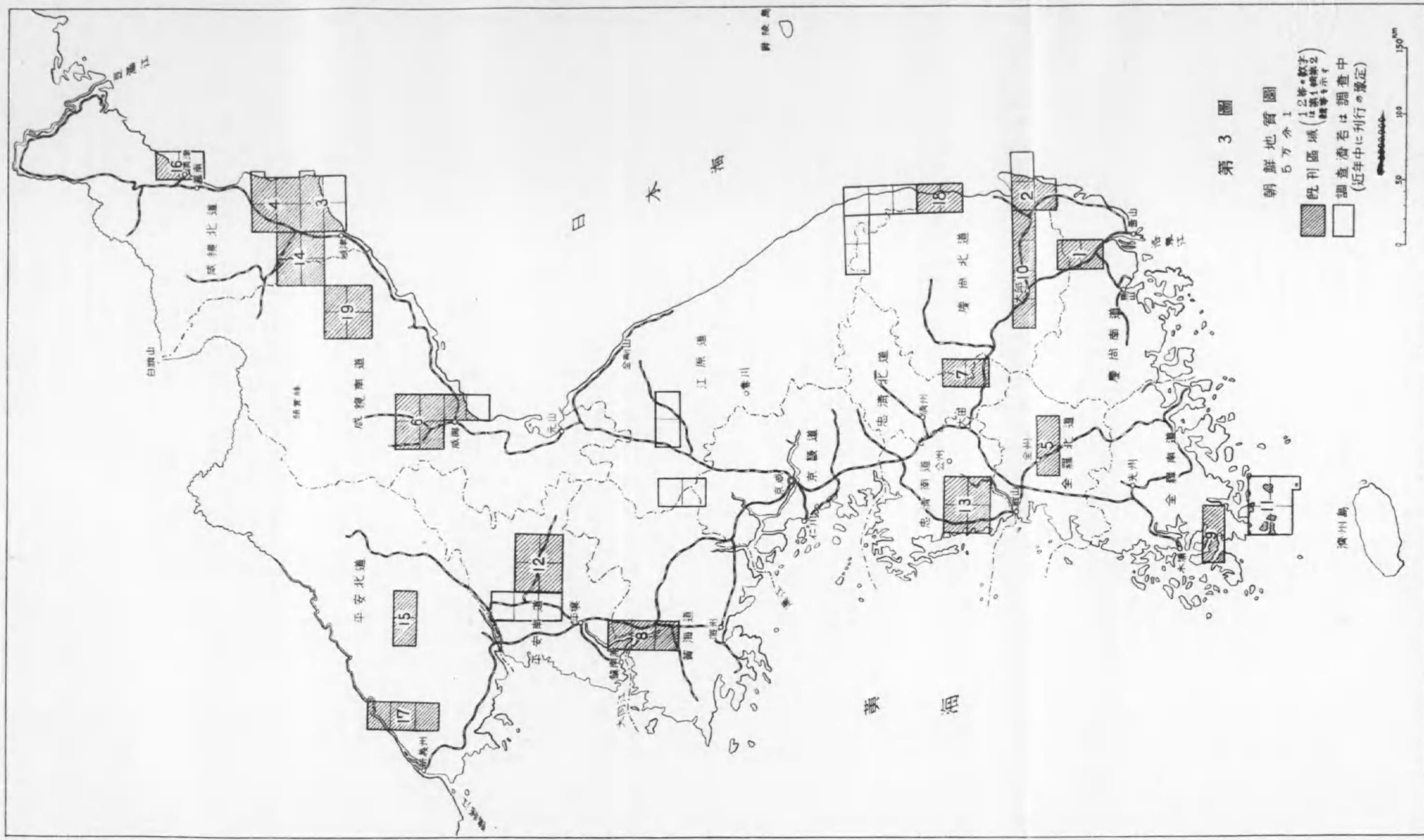
昭和9年

- 全羅北道扶安郡温泉調査
- 平安南道平原郡並平安北道博川郡雲母鑛床調査
- 咸鏡南道端川郡ニッケル鑛床調査
- 慶尙北道迎日郡海綠石及水鉛鑛床調査
- 黃海道谷山郡タンゲステン鑛床調査



工事

資料を提供する示針として、鉱業其の
 一般の依頼又は然らざるも臨機必
 等に關する檢定に従事し、其の結果
 して之を印刷刊行しつゝあり。
 項を列擧すれば次の如し。



第3圖

咸鏡北道吉州郡菱苦土鑛々床調査

忠清北道丹陽郡リシア雲母鑛床調査

慶尙南道金海及密陽郡鐵鑛床調査

忠清南道燕岐郡ニッケル鑛床調査

同 天安郡安質母尼鑛床調査

昭和 10 年

全羅南道順天、寶城、和順郡金鑛床其他鑛床調査

同 木浦府並其の附近地下水調査

江原道金化郡滑石鑛床調査

忠清北道丹陽郡並堤川郡リシア雲母其他鑛床調査

忠清南道瑞山郡珪石鑛床調査

全羅南道麗水郡麗水邑地下水調査

昭和 11 年

全羅北道南原郡南原鑛山鑛床調査

忠清北道鎭川、~~鎭~~城、槐山、報恩各郡硯石材調査

江原道高城郡溫井里溫泉調査

咸鏡南道甲山、豊山、端川各郡水力發電地區基盤調査

全羅北道群山府任實郡及鎭安郡貯水池基盤調査

咸鏡南道安邊郡珪藻土鑛床調査

全羅南道濟州島地下水調査

昭和 12 年

咸鏡南道甲山郡惠山鑛附近硫化鐵鑛床調査

全羅北道茂朱郡赤裳鑛山鑛床調査

慶尙南道昌寧郡第20師團演習地地下水調査

(ハ) 國境地帯簡易地質調査

國境地帯に於ける(1)鑛物土石の分布賦存の状態、並(2)土木及水利事業と

密接なる関係を有すべき地質の構成等を速急に踏査闡明し、以て國境地帯開發の促進を期せんとする臨時事業にして、技師1名、技手1名及雇員2名より成る調査班3箇班を以て之に當り、本年度以降3箇年を以て之を完了せんとす。其の調査豫定區域は

平安北道厚昌、慈城、江界、渭原、楚山、碧潼、昌城、朔州及義州の9郡

咸鏡北道茂山郡

咸鏡南道甲山、三水及長津の3郡

合計13郡にして、最近既に咸鏡北道茂山郡、咸鏡南道甲山郡、平安北道江界郡及義州郡に於て夫々踏査に着手したり。

(ニ) 参考標本類の蒐集

當所に於ける調査研究上参考となるべき標本類は、朝鮮内に於けるものは勿論、本邦内地並外國に於けるものをも努めて之を蒐集整理し、其の1部は廳舎内の1室に陳列して廣く一般の参考にも供しつゝあり(3. 設備、標本陳列室の項第12頁を見よ)

(ホ) 調査報告書の刊行

調査の結果は地質圖又は報告書として、努めて之を刊行し、關係官署及企業家に配布する外、學術上参考となるべき刊行物は國內外斯學關係官廳等に交換的に寄贈しつゝあり。

本所開設以來の刊行物を擧ぐれば次の如し。

朝鮮鑛床調査報告

第1卷第1號(大正4年)平安北道昌城及朔州兩郡鑛床調査報文

第1卷第2號(大正10年)平安北道沿岸地方鑛床調査報文

第2卷第1號(大正2年)平安南道价川及順川附近鑛床調査報文

第2卷第2號(大正6年)平安南道鑛床調査報告、平安南道价川郡中西面天王金山鑛床調査報文

第3卷第1號(大正2年)黃海道西部鑛床調査報文

第3卷第2號(大正4年)黃海道東部鑛床調査報文

第3卷第3號(大正10年)黃海道南東部鑛床調査報文

第5卷第1號(昭和4年)咸鏡南道南部鑛床調査報文、咸鏡南道北部鑛床調査報文

第6卷第1號(大正6年)京畿道鑛床調査報文

第6卷第2號(大正7年)京畿道東部及南部鑛床調査報文、京畿道西北部鑛床調査報文

第7卷第1號(大正10年)江原道北部鑛床調査報文、江原道金化郡金化面乾川里鑛床調査報文

第7卷第2號(大正13年)江原道南部鑛床調査報文、江原道北部鑛床調査報文

第8卷(大正12年)忠清北道鑛床調査報文

第9卷(大正10年)忠清南道鑛床調査報文

第10卷第1號(大正2年)慶尙北道尙州附近金鑛調査報文

第10卷第2號(大正10年)慶尙北道東部鑛床調査報文

第10卷第3號(大正13年)慶尙北道西部鑛床調査報文

第11卷(大正10年)慶尙南道東部鑛床調査報文、慶尙南道西部鑛床調査報文、慶尙南道釜山府絶影島(牧の島)鑛床調査報文

第12卷(大正12年)全羅北道鑛床調査報文

第13卷(大正11年)全羅南道鑛床調査報文

朝鮮鑛床調査要報

第1卷第1號(明治45年)朝鮮に於ける石炭

第1卷第2號(大正5年)朝鮮に於ける雲母

第2卷(大正12年)朝鮮鑛物誌

第3卷第1號石炭乾餾試驗報文

第3卷第2號(昭和2年)石炭風化試驗成績報文

第3卷第3號(昭和2年)鑛産物分析試驗成績報文

第4卷第1號(昭和3年)慶尙南道統營郡光道面竹林里だいあすぼーち鑛床調査報文

- 第4巻第2號(昭和5年)慶尙北道慶州郡珪藻土調査報文
- 第4巻第3號(昭和6年)咸鏡北道富寧郡廣長金鑛調査報文
- 第4巻第4號(昭和7年)京畿道富川郡永宗面永宗島、三木及薪佛島、北島面信島、龍游島の1部並文鶴面金鑛調査報文、慶尙南道梁山郡勿禁鐵山鑛床調査報文
- 第5巻(昭和7年)黃海道鐵鑛床調査報文
- 第6巻(未刊)平安南道价川、中和及江西郡鐵鑛床調査報文、黃海道黃州、安岳及載寧郡鐵鑛床調査報文
- 第7巻第1號(昭和7年)咸鏡南道瑞川郡北斗日面陽川里大華陽洞附近に於ける菱苦土鐵鑛床調査報文
- 第7巻第2號(昭和8年)黃海道載寧、鳳山及平山郡に於ける螢石鑛床調査報文
- 第8巻(昭和9年)慶尙南道金海郡、全羅南道海南、珍島及務安郡明礬石鑛床調査報文
- 第9巻(昭和10年)古文獻に顯はれたる朝鮮の鑛産物
- 第10巻第1號(昭和10年)平安南道成川郡大谷面石綿鑛床調査報文、平安北道博川郡及平安南道平原郡雲母鑛床調査報文
- 第10巻第2號(昭和10年)咸鏡南道瑞川郡南斗日面雲松里ニッケル鑛床調査報文
- 第11巻第1號(昭和11年)平安南道大同郡及江西郡陶石、長石及磁土鑛床調査報文、忠清南道瑞山郡珪石鑛床調査報文
- 朝鮮地質調査要報**
- 第1巻第1號(大正8年)平安南道無煙炭層地質調査報文
- 第1巻第2號(大正12年)東津水利組合貯水地豫定地附近地質調査報文
- 第2巻(大正13年)東萊温泉調査報文、東萊温泉第2回檢定報文
- 第3巻(大正13年)海雲臺、儒城、溫陽、信川、安岳及龍崗温泉調査報文、朝鮮主要温泉表、東萊温泉第3回檢定報文、同第4回檢定報文
- 第4巻第1號(大正14年)朝鮮に於ける古期中生代の植物
- 第4巻第2號(昭和2年)朝鮮に於ける古期中生代の植物追加
- 第5巻第1號(大正14年)大正14年7月中旬京城附近に於ける漢江氾濫調査報文
- 第5巻第2號(大正15年)慶尙南道咸安郡第2咸安水利組合事業地附近地下水調査復命書
- 第6巻第1號(昭和2年)朝鮮に於ける平安系の植物 1.(木賊及櫻葉類)

- 第6巻第2號(昭和6年)朝鮮に於ける平安系の植物 2.(同譜)
- 第6巻第3號(昭和7年)朝鮮に於ける平安系の植物 3.
- 第6巻第4號(昭和9年)朝鮮に於ける平安系の植物 2.(本文)
- 第7巻(大正15年)溫井里、朱乙、下朱乙、平山温泉調査報文、椒井里冷炭酸鐵泉調査報文、東萊温泉第5回檢定報文、東萊温泉第6回檢定報文
- 第8巻第1號(昭和3年)溫陽温泉及水安堡温泉調査報文、馬山温泉調査報文
- 第8巻第2號(昭和4年)全羅北道益山郡裡里地下水調査報文、全羅北道金堤郡道風面地下水調査報文、全羅南道乾海苔製造用水及漁船用水調査報文
- 第8巻第3號(昭和4年)全羅山楡岾寺温泉調査報文、安邊郡釋王寺藥水調査報文、釜山水道水源調査報文
- 第9巻第1號(昭和6年)慶尙北道八公山々嶺調査報文
- 第9巻第2號(昭和6年)京城府三清洞及清進洞地下水中「クロール」含有量測定試験報文
- 第10巻第1號(昭和6年)濟州島の地質
- 第11巻第1號(昭和6年)北朝鮮に於ける奥陶紀層序及古生物の研究、附 山東及遼東の奥陶紀化石
- 第12巻(昭和11年)朝鮮東海岸咸鏡南道安邊地方に於ける新期第3紀珪藻
- 5萬分の1 朝鮮地質圖**
- 第1輯(大正13年)密陽及楡川の2圖幅
- 第2輯(大正13年)延日、九龍浦及朝陽の3圖幅
- 第3輯(大正14年)下鷹峰、吉州、泗浦洞及臨溪の4圖幅
- 第4輯(大正14年)極洞、明川、七寶山及古姑洞の4圖幅
- 第5輯(大正15年)鎮安及全州の2圖幅
- 第6輯(大正15年)新興、古土水、元平場、五老里、咸興及西湖津の6圖幅
- 第7輯(昭和2年)青山及永洞の2圖幅
- 第8輯(昭和4年)兼二浦、沙里院及載寧の3圖幅
- 第9輯(昭和4年)海南及右水營の2圖幅

- 第10輯(昭和4年)慶州、永川、大邱及倭館の4圖幅
- 第11輯(昭和5年)莞島、蘆花島、青山島及太郎島及所安島の4圖幅
- 第12輯(昭和6年)東倉、股山、別倉里及成川の4圖幅
- 第13輯(昭和6年)青陽、大川里、扶餘及藍浦の4圖幅
- 第14輯(昭和7年)載德、新福場、古堡及亶足里の4圖幅
- 第15輯(昭和8年)北嶺及牛峴嶺の2圖幅
- 第16輯(昭和8年)連津及清津の2圖幅
- 第17輯(昭和11年)清城嶺、天摩洞及永山市の3圖幅
- 第18輯(昭和12年)寧海及盈徳の2圖幅
- 第19輯(印刷中)魚坪里、古城里、直洞及上農里の4圖幅

雜 報

第1號(昭和11年)朝鮮に於ける地質及鑛物資源調査沿革

100萬分の1. 朝鮮總圖

- 第1版(大正11年)
- 第2版(昭和2年)

100萬分の1. 朝鮮地質總圖

- 第1版(大正9年)
- 第2版(昭和3年)

次に當所と刊行物の交換を行ひつゝある主なるところを擧ぐれば次の如し。

本 邦 内 地

東京地學協會	地震學會
日本地質學會	大塚地理學會
日本岩石鑛物鑛床學會	日本鐵鋼協會
日本地理學會	水曜會
商工省地質調査所	同 鐵山局
同 陶磁器試驗所	同 燃料研究所

東京工業試驗所	大阪工業試驗所
内務省土木試驗所	海軍燃料廠
八幡製鐵所	三菱鐵業株式會社調査部
北海道地質調査委員會	震災豫防調査會
帝國學士院	學術研究會議
東京帝國大學理學部	地震研究所
東北帝國大學理學部	九州帝國大學工學部
京都帝國大學理學部	旅順工科大学
北海道帝國大學理學部	東京文理科大学
臺北帝國大學理農學部	秋田鐵山專門學校
早稻田大學理工學部	

朝 鮮

朝鮮總督府殖産局鐵山課	同 觀測所
同 燃料選鐵研究所	同 文書課
同 中央試驗所	同 社會教育課
同 農事試驗場	同 商工獎勵館
同 林業試驗場	同 圖書館
同 水産試驗場	中樞院
京城帝國大學	朝鮮化學會
朝鮮鐵業會	朝鮮工業協會
朝鮮博物學會	

臺 灣

臺灣總督府殖産局鐵務課	臺灣地學會
同 中央研究所	

滿 洲

南滿鐵地質調査所	滿洲國實業部總務司文書課
----------	--------------

満洲鐵業協會

ドイツ

Preuszische Geologische Landesanstalt *Berlin*

Sachsisches geologisches Landesamt *Leipzig*

Senckenbergische Naturforschende Gesellschaft *Frankfurt a. M.*

オーストリア

Geologisches Bundesanstalt *Wien*

Geologisches Institut d. Univ. *Wien*

ハンガリー

Magyar királyi Földtani Intézet *Budapest*

フランス

Service de la Carte Géologique de France et des Topographies
souterraines *Paris*

Société géologique de France *Paris*

イギリス

Geological Survey of Great Britain *London*

- Department of Geology, British Museum (Natural History) *London*

エスパニア

Instituto Geológico y Minero de Espana *Madrid*

イタリア

R. Ufficio geologico *Roma*

オランダ

Geologisch Bureau voor het Nederlandsch Mijng gebied *Haarlem*

エストニア

Geological Institution of the University of Tartu *Tartu*

社会主義ソヴィエト共和国聯邦

Central geological and prospecting Institute *Leningrad*

Science Reserch Institute of Economic Mineralogy *Moscou*

Société des Naturalistes de Moscou *Moscou*

All-Ukrainian Academy of Sciences Institute of Geology *Kiev*

スウェーデン

Sveriges geologiska Undersökning *Stockholm*

Geologiska Föreningen i Stockholm *Stockholm*

Kung. Universität *Uppsala*

アメリカ合衆國

U. S. Geological Survey *Washington*

American Museum of Natural History *New York*

University of California *Berkeley*

Princeton University *Princeton*

カナダ

Geological Survey, Department of Mines *Ottawa*

Royal Society of Canada *Ottawa*

Bureau of Mines *Torronto*

メキシコ

Instituto de Geologia *México*

アルゼンチン

Dirección General de Minas, Geologia e Hidrologia *Buenos Aires*

ブラジル

Servico Geologico e Mineralogico do Brasil *Rio de Janeiro*

チリ

Departamento de Minas y Petroleo *Santiago*

オーストラリア

Geological Survey of Victoria *Melbourne*

Geological Survey of New South Wales *Sidney*

Geological Survey of Western Australia *Perth*

Geological Survey of Queensland *Brisbane*

Geological Survey of Tasmania *Hobart*

Geological Survey of New Zealand *Wellington*

南アフリカ聯邦

Geological Survey of the Union of South Africa *Pretoria*

Geological Society of South Africa *Johannesburg*

ウガンダ

Geological Survey of Uganda *Entebbe*

マダガスカル

Services des Mines de Madagascar et Dépendance *Tananarive*

支那

Geological Survey of China *Nanking*

Geological Society of China *Nanking*

Geological Survey of Kwangtung and Kwangsi *Canton*

Geological Survey of Hunan *Changsha*

Shanghai Science Institute *Snanghai*

佛領インド支那

Service Géologique de l'Indochine Française *Hanoi*

フィリッピン

Division of Geology and Mines, Bureau of Science *Manila*

インド

Geological Survey of India *Calcutta*

Mineralogical Survey of Ceylon *Colombo*

オランダ領東インド諸島

Dienst van den Mijnbouw in Nederlandsch-Indie *Bandoeng*

シベリア

Far Eastern Branch of the Academy of Sciences of the USSR

Vradivostok

昭和12年12月1日印刷

【非賣品】

昭和12年12月2日發行

朝鮮總督府地質調查所

京城府本町4丁目131番地

印刷人 谷岡貞治

京城府本町4丁目131番地

印刷所 合資社 谷岡商店印刷部

145
631

14. 5-631



1200501218027

145

1

終